

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

「この本を読んだ今の人生と読まなかった人生は、確実に違う」本を読む人には必ずやこうした思いが湧く。

～ 齋藤孝著『読書の子カラ』(大和書房) p.197 ～

1. お茶博士と呼ばれる日本初の女性農学博士・辻村みちよ



米国視察から帰朝の日に
(写真提供：埼玉県桶川市)

日本食ブームや健康志向の高まりにより、いまや世界中で愛飲されている緑茶。急須に茶葉を入れて湯を注ぎ、湯呑み茶碗に丁寧に注いでひと口飲めば、気持ち落ち着き、ほっとした空気に包まれます。緑茶にビタミンCやカテキンが多く含まれることはよく知られていますが、これらの成分を発見した方が東都大学深谷キャンパス近隣のご出身であることをご存じですか?日本初の女性農学博士である辻村みちよ氏です。

みちよは1888年に現在の埼玉県桶川市に生まれ、幼い頃から勉学に励みました。尋常高等小学校に勤務した後、東京府立女子師範学校、東京女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学)へと学びの道を進めたみちよは、日本初の女性理学博士である保井コノ教授に教えを受けた時に、学問研究への関心を強く抱くようになります。東京女子高等師範学校を卒業後は神奈川や埼玉で教員として勤めましたが、1920年には北海道帝国大学(現・北海道大学)に無給助手の職を得て、主に蚕の栄養についての研究を行うようになります。1922年には東京帝国大学(現・東京大学)で生化学の研究を、1923年には理化学研究所で茶の研究を行い、三浦政太郎との共同研究では緑茶に多くのビタミンCが含まれることを発見し、学会報告後に日本茶の輸出量が増大したと言われています。1929年には、世界で初めて茶の渋みの本体であるカテキンを純粋な結晶として分離することに成功。続く翌年にはさらに渋みの強いタンニンを結晶として取り出すことに成功し、その化学構造を決定しました。これらの研究成果をまとめた論文「緑茶の化学成分について」が高く評価され、みちよは1932年に東京帝国大学から農学博士の学位が与えられます。日本初の女性農学博士が誕生した瞬間でした。

以後も研究者として多くの実績を残しながら、教育者として後進の育成に注力した辻村みちよ氏。晩年には自身の研究生生活を振り返り、「苦しみの連続だったが悔いのない楽しく幸せな人生であった」と語られたそうです。



理系の扉を開いた
日本の女性たち
ゆかりの地を訪ねて
(西條敬美著 / 新泉社)

2. 学生選書ツアーの選書本が書棚に並びました!

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)第136号で紹介した学生選書ツアーの選書本が、図書館1Fの図書カウンター前に並びました。本の装飾をしながら1冊ずつ興味深く拝見しましたが、ツアー参加者の皆さんが心を込めて選書した気持ちが伝わってくるようでした。図書館にあってほしい本、友達に勧めたい本、ご自身の経験から実習や授業に必要な本など、全ての学年に役立つような本など、様々な視点で選書された選りすぐり本たちが並び学生選書コーナーは、眺めているだけでも楽しくなります。

2024年1月13日(土)～31日(水)には紀伊國屋書店新宿本店3FでPOP展示が行われます。アイディア満載の秀逸なPOPをぜひご覧ください!



3. 皿良ゆうさん、2度目の本屋大賞を受賞

皿良ゆうさんの著書『汝、星のごとく』(講談社)が2023年本屋大賞に輝きました。皿良さんの本屋大賞受賞は2度目で(恩田陸さんに続き史上2人目です)、前回は2020年に『流浪の月』(東京創元社)で受賞されています。

『汝、星のごとく』は主人公の井上暁海(あきみ)と青空権(あおのかい)が瀬戸内の小さな島で17歳の頃に出会い、その後の15年間を描いた物語です。大きくジャンル分けしますと恋愛小説になりますが、ヤングケアラーやLGBTQ、地方の経済格差など様々な要素を含み、恋愛小説以上のストーリーが広がっています。島という小さなコミュニティで、周囲の好奇の目に晒されながらも《自分たちが納得して選択した人生》を歩む主人公たち。たとえ世間の常識や正しさに反したとしても、皆それぞれの正義があり、覚悟をもって《自分の人生》を歩んでいます。本作を読み進めると、世間の常識では測れない登場人物たちの関係性に、《正しさとは何か》を問われている気持ちになります。

作中に時々お菓子の“じゃがりこ”が出てくるのですが、読みながら食べたくなってしまるのは私だけでしょうか。単なる恋愛小説ではない、「自分の人生をどう生きるか」を考えさせられる1冊です。



汝、星のごとく
(皿良ゆう著 / 講談社)

4. 栄養士・松丸奨(すすむ)さんをご存じですか?

全国学校給食甲子園(第8回・2013年)で男性栄養士として初めて優勝した松丸奨さんは、東京都内の小学校で給食に従事する、子どもにも保護者にも大人気の学校栄養士さんです。着任当初、あまりの食べ残しの多さに驚いた松丸さんは、「子どもたちに最高の給食を届けたい!」という想いから残食率ゼロを目指し、日々奮闘されています。学校給食はカロリーや栄養価、予算、衛生管理面など様々な厳しい制限があり、頭を悩ます栄養士さんも多い中、松丸さんは持ち前の行動力で都内の農家へ足繁く通い、時には草取りや収穫を手伝いながら交流をもち、その熱意に心を動かされた農家の方々が給食用の食材を直接卸してくれるようになるなど、給食の新しい道を切り拓いています。『給食が教えてくれたこと』(くもん出版)に詰まった松丸さんの行動力溢れるエピソードは、私たちに勇気を届けてくれます。



給食が教えてくれたこと
「最高の献立」を作る、くもん学校栄養士
(松丸奨著 / くもん出版)

◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

およそ人は理想的にいえば、深沈にして機敏、機敏にして深沈、よく静と動とを兼ね、水も山もともに楽しむ者とならねばならない。



【渋沢栄一訓言集】・処事と接物

物事に動ぜず、必要な時には即時に動くこと。静と動とをあわせもち、それを自分自身でコントロールできることは、私たちの理想です。「自分」を保つことは精神的に穏やかな状態をもたらす、諸事において良い成果を上げることができます。静と動の両方をバランスよく保つことが大切です。

※格言は『渋沢栄一 明日を生きる100の言葉』渋澤健・著/日本経済新聞出版社 p.90より転載

20代を 無難に 生きるな

永松茂久

仕事 人間関係 学び 習慣 読書
人生の基礎をつくる「はじまり」の10年間。
停滞するか、180度
上に登るか。

20代を無難に生きるな
(永松茂久著 / きずな出版)

『20代を無難に生きるな』

管理栄養学部 管理栄養学科 助手 荻野秀香

皆さんはどんな時に本屋へ行かれるでしょうか?定期的に漫画や雑誌を買いに行く…その時自分の興味のある本を探していく…何気なく本屋に立ち寄るなど様々だと思います。私は目的もなく本屋を歩いて見て回るのが好きです。本屋を歩いていると、表紙やタイトルがとても印象的な本がたくさん置いてあります。思わず「何だろう…」と手に取ってしまうような、好奇心を刺激する本たちです。

今回ご紹介する本は、『20代を無難に生きるな』という本です。これがフラッと入った本屋で印象的なタイトルについて手に取ってしまった1冊です。私がこの本と出会ったのは社会人になってからでしたが、読んでいくうちに学生の時に読んでいたらどう感じていただろうと思いました。今回の図書館通信を通じて、東都大学の皆様にご紹介する機会をいただけたので、特に学生の皆さんに読んでいただけたら嬉しいです。

さて内容に入りますが、印象に残っている部分が多いので、特に私が学生の皆さんに読んでいただきたい部分を抜粋してご紹介していきたいと思います。「20代のころは、やりたいことなどほとんどできないと心得る」(p.90)。皆さんも経験があるかと思いますが、しなくてはいけないことがあるけれど面倒だしゆっくりしたい…学校の課題を終わらせないといけないけど携帯を見ていたい…といった状況、よくありますよね。“やりたいこと”があっても“しなくてはならないこと”があるといった状況は、学生に限らずどんな人でも直面する状況です。やりたくないからやらないといった選択ができることもありますが、結局「いやなことから逃げて、それは一時のき。そこで得た“ラクさ”は、いつか自分に牙を剥いて噛み付いてくる」(p.94)。つまりは、「選り好みをせず求められることを全力でやる」(p.92)ということです。厳しく聞こえるかもしれませんが、やるべきことに向き合ってこそ、自分のやりたいことに向き合える時間がとれるということを伝えているのです。

では、人にやりなさいと言われたことを言われるがまま従っていいのかわかると思った人もいます。ですが冷静に考えてみると、自分が教を乞う側だとしたら、やりなさいと言われたことをやるのは当たり前のことです。もちろん、自分のやりたいことをやるという意志を強く持つことも大切なことですが、それはただ目標に向かって飛びかかったのではたどりつけません。そこまでの過程を一つずつゴールに向かってコツコツ進んでいくしかないのです。ここでひたむきに頑張った人だけが、“自分のやりたいこと”ができる人になれるのです。

少し固い話になってしまいましたが、心に響く内容ばかりです。是非、20代の今を後悔しないように生きてください!

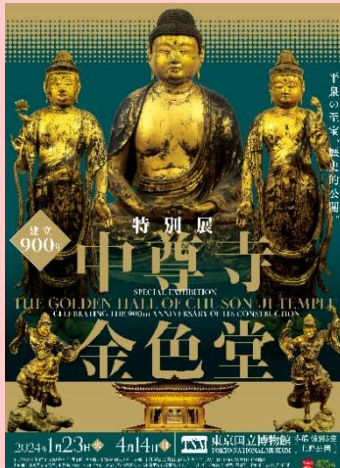
建立900年 特別展 中尊寺金色堂

五月雨の降残してや光堂—これは松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅路で平泉を訪れた時に詠んだ句です。様々な解釈がありますが、「すべてを朽ち崩す五月雨がここには降らなかったのか、光堂は昔のままの様子で華やかに輝いている」と解釈されることが主流でしょうか。

中尊寺は850(嘉祥3)年に比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁(じかくだいしえんにん)によって開かれ、その後、12世紀初頭に奥州藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔の造営が行われました。金色堂は1124(天治元)年に上棟され、東北地方に現存する最古の建造物として、今なお目映いばかりに佇んでいます。源頼朝による奥州攻めの時も中尊寺は残され、金色堂を保護するための覆堂(おおいどう)が造られました。また、マルコ・ポーロが日本を「黄金の国ジパング」と表現した理由の一つに、中尊寺金色堂の存在があったと言われています。護り受け継がれてきた中尊寺金色堂。国宝であり、世界文化遺産に登録される平泉のシンボルとしても世界中から注目を集める中尊寺金色堂は、2024(令和6)年に建立900年を迎えます。

本展では中尊寺金色堂建立900年を記念し、堂内で最も重要とされる国宝仏像11体をすべて展示します。金色堂内には3つの須弥壇(しゅみだん)があり、今回展示される国宝仏像11体は、奥州藤原氏初代当主にして金色堂を建立した藤原清衡が眠っているとされる中央壇の壇上に安置されています。また会場内では、幅約7m×高さ約4mの大型ディスプレイ上に超高精細CG(8KCG)を用いた原寸大の金色堂を再現し、900年間祈りが捧げられてきた黄金に輝く金色堂とその堂内の空間を皆様にご体感いただけます。まるで上野に金色堂がやってきたかのような、迫力ある美しい映像です。このほか、かつて金色堂を荘厳していた国宝・金銅迦陵頻伽文華鬘(こんどうかりょうびんがもんげまん)をはじめとする華やかな工芸品の数々を紹介しています。ぜひこの機会に、平泉の迫力ある文化と歴史の粋をご堪能ください。

会場: 東京国立博物館 本館特別5室(〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9) 会期: 2024年1月23日(火)~4月14日(日) 開館時間: 9時30分~17時00分 ※入館は開館の30分前まで 休館日: 1月20日(土)、2月13日(火) ※ただし、2月12日(月・休)、3月25日(月)は開館 観覧料(税込): 一般1,600円 / 大学生900円 / 高校生600円 ※中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。※本展は事前予約不要です。展覧会公式HP: <https://chusonji2024.jp/> 展覧会公式X(旧Twitter): @chusonji2024 東京国立博物館HP: <https://www.tnm.jp/> ※最新の情報は展覧会公式HPや東京国立博物館HP等をご覧ください。 ※画像の転載ならびにコピー禁止。



◇ 石路 (ツワブキ) ◇



秋から冬にかけて美しい黄色い花を咲かせるツワブキ。花が少ない時期に咲くので、ミツバチや蝶が蜜を求めてツワブキに舞い降りる姿をよく見かけます。艶々とした大きな葉が特徴で、フキの葉に似ていることから「ツバフキ」、転じて「ツワブキ」と呼ばれるようになりました。花言葉のひとつに「謙譲」をもちますが、落ち着きのある花姿からつけられたそうです。島根県津和野町は「ツワブキの生い茂る野」がその名のルーツとされています。

◆ 図書館からのお知らせ ◆

東都大学附属図書館では電子図書館「Maruzen eBook Library」(以下MeL)をご利用いただけます。電子図書館とは、実際に図書館に足を運ばなくてもインターネットを通じてパソコンやタブレット、スマートフォン等から電子書籍やDVDを閲覧できるサービスで、大学内はもちろん、大学外でも使えるように設定をすれば、自宅や実習先から利用できます。現在MeLに登録されている資料数は300件以上。使い方や大学外の利用設定など、わからないことはお気軽にお尋ねください。



電子図書館 MeL はこちら